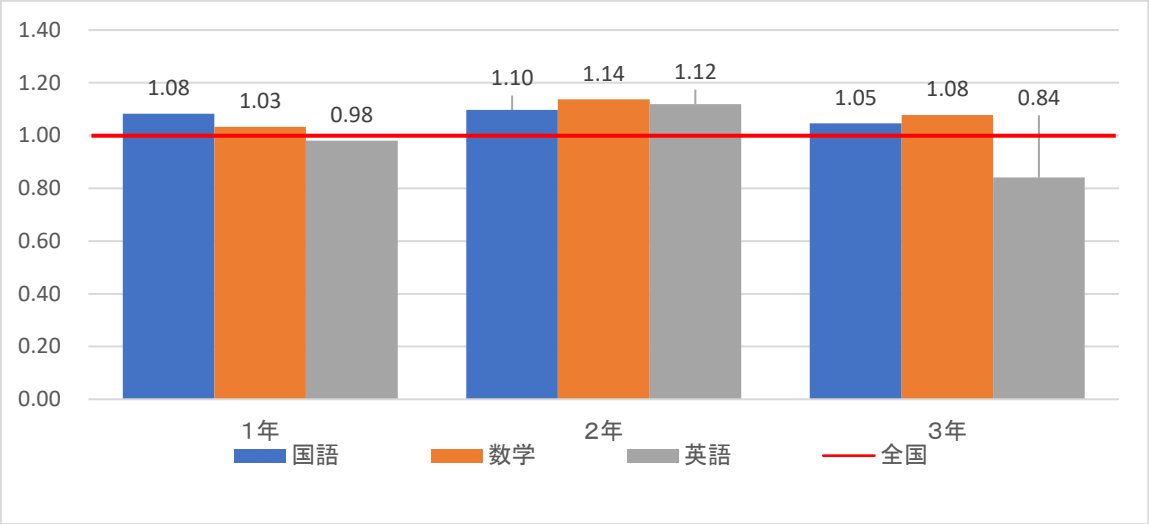
令和６年度 全国学力・学習状況調査及び寝屋川市学習到達度調査について
第十中学校

○調査結果（全国平均を１とした場合の平均正答率の比）



※中学１・２年生は寝屋川市学習到達度調査

中学３年生は全国学力・学習状況調査（英語のみ寝屋川市学習到達度調査の結果）

○調査結果についての分析、今後の改善方策

寝屋川市学習到達度調査	国語	１・２年生ともに全国平均を上回った。特に、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」領域では大きく上回っており、日々の生徒主体の授業づくりやディベート的手法を用いた授業展開の成果と考えられる。
	数学	１年生は自分の考えを説明する問題の正答率は高い。一方で、割合を求めることに課題があり、文字式、方程式などで継続的に取り組んでいく。２年生は基礎・活用のいずれの問題についても、全国平均を上回っている。立式したり、理由を説明したりする問題に対応できる力をつけていく。
	英語	１年生と３年生に関しては全国平均を下回ったが、１年生の英作文はわずかに上回った。２年生に関しては全体的に全国平均を上回っている。全学年、英文の語順に課題があり、「話す、書く」活動を通して基礎から定着を図っていく。
全国学力・学習状況調査	国語	概ね全国平均を上回る結果であった。「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」設問では、全国平均を大きく上回っており、ディベート教育や日々の授業での取組が反映されていると考えられる。
	数学	どの分野も全国平均を上回る結果で、特に「データの活用」領域については大きく上回った。ディベート教育で「データを根拠として読み取る」成果の一つと考えられる。一方、記述式で答える問題は全国平均をやや下回るため、授業での指導の必要性がある。
	質問紙	「自分には良いところがある。」「将来の夢や目標を持っている。」「友達関係に満足している。」等の項目で、肯定的回答が全国平均を上回っており、子どもたちが概ね良好な学校生活を送っていることが推測できる。

○学力向上の取組

【 中学校区 】

中学校区として、ねやがわスタンダードに即した授業展開の中で褒める、認めるなどの声掛けや道徳の時間・ディベート教育を通して、論理的思考と非認知能力の向上を図ることで、「確かな学力」を身に付けた子どもの育成をめざしていく。

【 学 校 】

「『わかった、できた』を実感する授業づくり」「批判的（多面的・多角的）に考える授業づくり」を研究推進のテーマとした取組も２年目となり、その成果が数値に反映されていると考えられる。今後も、PBIS で子どもたちの自己肯定感と非認知能力を育み、未来を切り拓く力となる確かな学力を身につけさせることや、道徳教育とディベート教育を他教科とつなぐ学びを展開することで、学校教育目標「深く考え　心豊かな　たくましい子」の育成に努めてきたい。